



試 し 行 動

# 試し行動とは？

「自分のことを受け止めてくれるのか？」

「自分にどれくらい愛情があるのか？」

「こんなことをしても受け入れてくれるのか？」

を試すために、

悪いこととわかっていながら

ネガティブな行動を取って大人の様子を見る

子どもの愛情確認行動

試し行動には

どのようなものがあると

思いますか？

# 試し行動の例

- ✓ ものをわざと投げる
  - ✓ 手におえないほど泣き叫ぶ
  - ✓ 絵本をわざと折る、破くなど物を壊す
  - ✓ 食事やジュースをわざとこぼす、吐き出す
  - ✓ 床や壁をわざと汚す
  - ✓ 大人や友だちにわざと噛みつく
  - ✓ 大人の様子を見ながら逃げる
  - ✓ わがままを繰り返す
  - ✓ 何度も叱られた行動を繰り返す
- 等

# 子どもの試し行動が続いてしまうと...

どうしてよいかわからず、

「私のことが嫌いなのではないか」

「愛情不足なのではないか」

「わざと怒らせようとしているのではないか」

と思い悩んでしまいやすい

子どもが試し行動を行う心理

「親や保育士、児童指導員の

愛情が変わらないものであることを確かめたい」

試し行動は信頼関係を確かなものにするための第一歩！

「自分は愛され、受け入れられている」と

安心感をもって成長していくための大切なステップ

- ・ 試し行動に対処するためには、  
多大な努力や忍耐が必要となり、  
つらく感じてしまうこともある
- ・ あきらめて無視をしたり、感情的に対応してしまうと  
状況はさらに悪化してしまう
- ・ 一度信頼関係が壊れると回復することは困難

試し行動の目的は？

「あなたに受けとめてもらいたい」というメッセージ

→肯定的な視点で捉え対応する

# 試し行動に対する対処のポイント

## ✓ よいことと悪いことははっきり区別する

子どもたちが試し行動をする時、多くの場合その行為がいけないことだと理解していることが多い

→継続する試し行動に注意することをやめてしまうと、子どもたちは「してはいけないこと」かどうかの判断ができなくなってしまう

「ダメなことはダメ」と根気強く伝え続けることが大切

## ✓ 「どんなあなたも大好き」ということを伝える

ただ「ダメ！」と叱るだけでは、

愛情を確認したいと思っている子どもの不安感や不信感を取り去ることができない

「どんなことをしても、あなたのことが大好きだよ、大切だよ」

と言語・非言語で伝える

# 対応の例

- ✓ 叱った後に「あなたに成長してほしいからこそ、叱ったんだよ」と伝える
- ✓ 叱った後には抱きしめてあげる
- ✓ 「そんなことをしなくても、あなたのことが大好きだし、いつも見ているよ、大丈夫だよ」と伝える 等

## してはいけない対応の例

- ✓ 「そんなことをする子は嫌い」などど**子どもを否定する**
- ✓ うんざりした態度や無視など**子どもと向き合わない**
- ✓ 「そんなことをする子は知りません」  
「もう勝手にしなさい」など**疎外感を与える対応をする**  
**子どもたちの自己肯定感が下がり、試し行動が増えたり、**  
**他の問題行動（摂食障害や非行等）の原因となることもある**

# 満足できる愛情の量はそれぞれ違う

- ✓ 試し行動の内容や期間はその子どもによって異なる
- ✓ 子どもたちが満足する愛情の量は、一人ひとり異なる
- ✓ 1日1回抱きしめてもらうだけで満足する子、  
10回同じことをされても満たされない子、  
それぞれ個人差があることを理解する

子どもが「もう大丈夫だ」と安心するまで、  
根気強く愛情を伝え続けることが大切

授業の中で紹介した事例です。  
事例を考える参考にしてください。

小学校3年生のAちゃんは、親からの虐待を主訴として、3か月ほど前、この施設に措置されてきた。非常におとなしく、入所後も特別なトラブルもなく過ごしてきたのだが、最近になって、他児とのケンカや、年長児童に暴言を吐いて叩かれるなどのトラブルが増えてきた。

ある日、担当保育士が洗濯物をたたんでいた時のこと。学校から帰ってきたAちゃんが、たたんで置いていた洗濯物を全部蹴散らしてしまった。担当保育士がAちゃんを捕まえ、「どうしてこんなことしたの。せっかくたたんだのに」と言うも、Aちゃんは悪びれる様子もなく、平然とした態度であった。入所直後の様子から一変してしまい、こちらが叱っても何食わぬ顔のAちゃんに、担当保育士は、どう対応してよいものか、頭をかかえてしまった。